

横浜市立戸塚高等学校音楽コース及び 横浜市立横浜商業高等学校スポーツマネジメント科 基本計画（概要版）

<戸塚高等学校音楽コース 基本計画概要>

1 設置の基本的枠組み

- (1) 課程 単位制による全日制課程
- (2) 学科 普通科・音楽コース
- (3) 入学定員 1 学年 1 学級 40 人
- (4) 設置予定 平成 26 年 4 月

2 教育課程編成の基本方針

- (1) 目標
 - ア 大学進学に必要な普通科目の学力を育成する。
 - イ 音楽的能力・資質を高めるために、また音楽大学等に進学するために必要となる音楽の知識及び能力を育成する。
 - ウ 音楽を通じて地域や社会に貢献しようとする意欲と態度を養う。
- (2) 教科・科目 ※専門科目 14～27 単位
＜特徴的な専門科目＞
 - ・芸術音楽（ソルフェージュ等の基礎など専門的内容を深める：1 年次）
 - ・音楽理論（楽典、和声法など音楽の基本的な理論：2 年次）
 - ・音楽指導法（指揮法、編曲法など将来の音楽の指導者の基礎・基本：3 年次）
 - ・器楽 I（木管楽器、金管楽器、打楽器、鍵盤楽器から選択：3 年次）
 - ・演奏法（吹奏楽部等の活動と連動させ、楽器の演奏技術を高める：1～3 年次）

3 特色ある教育活動

- (1) 部活動
学習で身に付けた力を吹奏楽部の活動と連携して実践する。
- (2) 地域との連携
地域の福祉施設、小学校・中学校などにおける演奏や、地域の市民と連携した音楽活動など、音楽を通して地域へ貢献する活動を展開する。

（裏面あり）

<横浜商業高等学校スポーツマネジメント科 基本計画概要>

1 設置の基本的枠組み

- (1) 課程 全日制の課程
- (2) 学科 専門学科・スポーツマネジメント科（商業に関する学科）
- (3) 入学定員 1学年1学級 40人
- (4) 設置予定 平成26年4月

2 教育課程編成の基本方針

(1) 目標

- ア 大学進学などの進路希望を実現させる学力を育成する。
- イ 体のつくりや心の仕組み、健康、スポーツ、トレーニングに関する知識を習得し、科学的かつ安全にスポーツ技能を高める力を育成する。
- ウ スポーツを振興させ支援していくスポーツビジネスについての基礎的な知識を習得する。
- エ 将来の社会的職業的自立に役立つ資格取得・検定合格に必要な知識・技能を習得する。
- オ スポーツを通して課題を探究して解決し、国際社会に貢献しようとする意欲と態度を養う。

(2) 教科・科目 ※専門科目 30～36 単位

<特徴的な専門科目>

・スポーツ科学分野

スポーツ科学Ⅰ（体のつくり・心の仕組みなどの基礎的な理論：1年次）

スポーツ科学Ⅱ（怪我や疾病の予防、競技力向上の理論：2年次）

スポーツ科学Ⅲ（スポーツを主体的に実践するための指導法、理論：3年次）

スポーツ実技（専門種目の競技力向上：2～3年次）

・スポーツビジネス分野

スポーツマーケティング

（マーケティング基礎及びスポーツビジネス事例考察：3年次）

課題研究（スポーツビジネスに関する調査、研究：2年次）

・資格取得・検定合格を目指す科目

ビジネス基礎、情報処理、簿記、財務会計、電子商取引など：1～3年次

3 特色ある教育活動

(1) 部活動

部活動をスポーツマネジメント科で学習した内容の実践の場と位置付ける。

(2) 地域との連携

地域の小学校・中学校、自治会などのスポーツイベントに参加し、その運営・企画などに協力することで、学習が地域で活用される機会を設ける。

横浜市立戸塚高等学校
音楽コース
基本計画

平成24年8月

横浜市教育委員会

目 次

1	設置の目的	1
2	設置の基本的枠組み	
	(1) 課 程	
	(2) 学 科	
	(3) 入学定員	
	(4) 設置予定	
3	教育理念・育てたい人物像	
	(1) 教育理念	
	(2) 育てる人物像	
4	教育課程について	
	(1) 音楽コース教育課程編成の基本方針	2
	(2) 教育課程表	4
5	その他の特色ある教育活動	5
	(1) 部活動との関連	
	(2) 地域との連携	
	(3) 高大連携	
	(4) 外部機関との連携	
6	入学者の選抜方針	6
	(1) 募集の区分	
	(2) 入学定員	
	(3) 通学区域	
	(4) 選考方法	
7	施設・設備整備基本計画	
8	教職員・指導者等について	
	(1) 教職員の人事配置	
	(2) 指導者等について	

1 設置の目的

横浜市では、平成 22 年 12 月に、「横浜市中期 4 か年計画 2010～2013」を策定し、その中の基本政策 3「横浜経済の活性化」のうち施策 25「文化芸術による魅力・活力の創出」を掲げている。そこでは、「文化芸術のもつ創造性を様々な施策にいかして、市民生活の向上とコミュニティの活性化を図り、まちの再生に繋げていく環境を整備します。」を、目標の一つにしている。

その基盤を整備するために**文化芸術のもつ創造性を培い、将来横浜市に貢献できる人材を育成**することが必要である。

また、平成 23 年 1 月に策定した「横浜市教育振興基本計画」では、「重点施策 6」として「魅力ある高校教育の推進」を掲げ、その中で、「時代のニーズに対応した教育内容の見直しや専門コースなどの設置などにより、『生徒一人ひとりの可能性の伸長・希望する進路の実現』に向けて、魅力ある高校づくりを推進します。」としている。この基本計画を具体的に推進するために、同年 3 月に策定した「横浜市立高等学校教育振興プログラム」では、戸塚高校に芸術コースを設置することとした。

戸塚高校は、これまでも吹奏楽部の活動や年次別合唱コンクールなど、音楽活動が活発であった。このような資源をいかし、**音楽教育を通じて地域や社会の活性化に寄与する人物を育成**することをねらいとして、戸塚高校に音楽コースを設置することとし、平成 24 年 3 月に、基本方針を策定した。

2 設置の基本的枠組み

- (1) 課 程 単位制による全日制の課程
- (2) 学 科 普通科・音楽コース
- (3) 入学定員 1 学年 1 学級 40 人
- (4) 設置予定 平成 26 年 4 月

3 教育理念・育てたい人物像

(1) 教育理念

普通教育及び音楽の専門教育を通して、幅広い知識と教養、豊かな人間性及び高い音楽的能力をはぐくむ。

(2) 育てたい人物像

- ア 高校で身に付ける音楽的能力を大学等でさらに伸ばさせ、横浜において音楽の普及、発展に貢献しようとする意欲と態度をもった人物
- イ 生涯にわたって音楽を愛好し、音楽を通じて社会に貢献する人物

4 教育課程について

(1) 音楽コース教育課程編成の基本方針

ア 目標

- (ア) 大学進学に必要な普通科目の学力を育成する。
- (イ) 音楽的能力・資質を高めるために、また、音楽大学等に進学するために必要となる**音楽の知識及び能力を育成する。**
- (ウ) **音楽を通じて地域や社会に貢献しようとする意欲と態度を養う。**

イ 教科・科目

上記アの目標を実現するために、次の科目を設置する。

- (ア) 大学進学に通じる学力を身に付けるために必要な普通科目を設置する。
- (イ) 高い音楽的能力の基盤となる、音楽の基礎的・基本的な知識及び能力を身に付けるために必要な音楽専門科目を設置する。
- (ウ) 音楽コース専門科目を、10 単位以上履修する。

<必履修の音楽専門科目>

科目名	単位数	内容概要
芸術音楽	2 単位	音楽 I の内容を網羅した上に、ソルフェージュ等の基礎など専門的内容を深める。
音楽理論	1 単位	楽典、楽曲の形式、和声法など、音楽の基本的な理論を集中的に学習する。
ソルフェージュ	2 単位	音楽系大学進学に必要な視唱・視奏・聴音の力をはぐくむ。
総合音楽	2 単位	歌唱、器楽、創作、鑑賞の 4 分野を網羅し、芸術音楽を発展させる。
音楽指導法	2 単位	指揮法、編曲法など、将来音楽の指導者となる上での基礎・基本を身に付ける。
器楽 I	3 単位	木管楽器、金管楽器、打楽器、鍵盤楽器の中から一つ選び、演奏技術を向上させる。
演奏法	1～3 単位	吹奏楽部に所属している生徒は吹奏楽部の活動と連動させて、各パートの楽器の演奏技術を高める。吹奏楽部に所属していない生徒は、それぞれが選ぶ楽器（もしくは声楽）の演奏技術を高める。

ウ その他の科目・講座

音楽施設や大学などと連携し、長期休業期間等を活用して、音楽の感性を磨き、創造的な表現と鑑賞の能力を高めることのできる講座・科目を開設する。

エ 特別活動

- (ア) 全校で実施する音楽的学校行事の企画・運営の中核を担うことを通して、マネジメント能力を育成する。
- (イ) 音楽コースの学習の成果を発表する機会の一環として、小学校・中学校等と連携した合同演奏会など学校行事を実施し、地域の音楽活動の充実に貢献する活動を行う。
- (ウ) 地域の幼稚園・保育所、小学校・中学校、さらには市民の活動と連携し、音楽を通して社会に貢献する体験活動を展開する。

オ 総合的な学習の時間

音楽を社会との関連において深く理解するとともに、音楽を通して社会に貢献しようとする態度、さらには将来音楽関連の職業に携わる上での職業観をはぐくむことをねらいとして、次のような活動を展開する。

- (ア) 音楽を歴史・文化・技術などと関連させて理解する、教科横断的・探究的学習
- (イ) 幼児教育施設・福祉施設などでの演奏活動
- (ウ) 市内の小学校・中学校への演奏指導（「音楽指導法」の実践）
- (エ) 音楽ビジネスの体験（企業等との連携）
- (オ) 音楽イベントの企画・運営実践
- (カ) 演奏家の経済的側面の研究

(2) 教育課程表

	1年	2年	3年	
1	国語総合	<国語必修選択> 古典B 国語一般	コミュニケーション英語Ⅲ	1
2				2
3				3
4	世界史B	数学Ⅱ	体育	4
5				5
6				6
7	数学Ⅰ	<理科必修選択> 物理基礎 生物基礎	評論文研究 <普通科目必修選択> 英語総合 英文解釈	7
8				8
9				9
10	数学A	体育	音楽指導法	10
11				11
12				12
13	地学基礎	保健	器楽Ⅰ(楽器選択)	13
14				14
15				15
16	化学基礎	家庭基礎	音楽専門選択科目	16
17				17
18				18
19	体育	コミュニケーション英語Ⅱ	または 普通科目選択科目	19
20				20
21				21
22	コミュニケーション英語Ⅰ	日本史A	音楽専門選択科目 または 普通科目選択科目	22
23				23
24				24
25	英語表現	現代社会	音楽理論 ソルフエージュ	25
26				26
27				27
28	社会と情報 芸術音楽 (必修音楽代替)	総合音楽	総合的な学習の時間 LHR	28
29				29
30				30
31	総合的な学習の時間／演奏法 LHR	総合的な学習の時間 LHR	総合的な学習の時間 LHR	31
32				32

*今後の検討により、一部変更することもある。

< 3年次音楽専門選択科目 >

科目名	単位数
選択・ソルフエージュ、音楽史、作曲、 アンサンブル、器楽Ⅱ、声楽	各3単位

5 その他の特色ある教育活動

(1) 部活動との関連

教科学習で身に付けた力を、部活動を通して実践するなど、吹奏楽部の活動との関連を緊密に図る。

(2) 地域との連携

ア これまで戸塚高校吹奏楽部が実践してきた地域の音楽会への参加など、地域に貢献する活動を、音楽コースと部活動とが連携して実践する。

イ 地域の福祉施設、幼児教育機関、小学校・中学校などにおける演奏や、地域の市民と連携した音楽活動など、音楽を通して地域に貢献する活動を音楽コースの生徒が中核となって、学校全体として展開する。

(3) 高大連携

県内音楽系大学、都内音楽系大学と、次のような連携事業を行い、より一層、専門性を高めることができるようにする。

ア 専門的音楽演奏技術の個別指導

イ 高校への出張講義

ウ 長期休業期間などを活用した特別講座の実施

エ その他、音楽コースの教育内容、方法の充実に向けた助言や支援

(4) 外部機関との連携

市内の音楽に係る機関、施設などと連携して、演奏活動などを行う。

また、音楽の専門性を高めることをねらいとした支援を得られる機関等と連携を図る。

6 入学者の選抜方針

(1) 募集の区分

普通科・音楽コースとして募集する。

(2) 入学定員

1 学年 1 学級 40 人

(3) 通学区域

横浜市内全域とする。ただし、別に定める学区外入学許可限度数の範囲で、横浜市外からの入学を認める。

(4) 選考方法

次のア～エの結果を全て用いて選考する。

ア 調査書の評定

イ 学力検査 5 教科

ウ 面接

エ 特色検査

音楽的資質や能力・適性を把握するための**実技検査**を実施する。

7 施設・設備整備基本計画

レッスン室、アンサンブル室など、授業を展開する上で最低限必要な教室を整備するとともに、音楽教育を充実させるための施設・設備の整備を図る。

8 教職員・指導者等について

(1) 教職員の人事配置

ア 音楽専任教諭を複数配置する。

イ 器楽や声楽などの指導に必要な非常勤講師を配置する。

(2) 指導者等について

ア 音楽コーススーパーアドバイザー（仮称）を委嘱する。

イ 専門的な高い見地からの指導、助言を得るために教育顧問を委嘱する。

ウ 長期休業期間などを活用して高い専門的見地からの講演会や公開レッスンなどを著名な演奏家などに依頼する。

横浜市立横浜商業高等学校
スポーツマネジメント科

基本計画

平成24年8月

横浜市教育委員会

目 次

1 設置の目的	1
2 設置の基本的枠組み	
(1) 課 程	
(2) 学 科	
(3) 入学定員	
(4) 設置予定	
3 教育理念・育てたい人物像	
(1) 教育理念	
(2) 育てたい人物像	
4 教育課程について	
(1) スポーツマネジメント科教育課程編成の基本方針	2
(2) 教育課程表	4
5 その他の特色ある教育活動	5
(1) 部活動との関連	
(2) 地域との連携	
(3) 高大連携	
(4) 外部機関との連携	
6 入学者の選抜方針	6
(1) 募集の区分	
(2) 入学定員	
(3) 通学区域	
(4) 選考方法	
7 施設・設備整備基本計画	
(1) 野球場等について	
(2) トレーニングルームについて	
8 教職員・指導者等について	7
(1) 教職員の人事配置	
(2) 指導者等について	

1 設置の目的

横浜市は平成22年12月、「横浜市中期4か年計画 2010～2013」を策定した。その施策13「スポーツや学びで育む豊かな暮らし」では、市民が豊かな生活を送るために市民の健康作りの観点から、継続的な運動習慣を身に付けることや、それぞれの体力や年齢、技術に応じて身近な場所（地域）でスポーツに親しむことの必要性が示されている。また同時に、スポーツが観戦する人に夢や感動を与えるという側面などから、市民参加型のスポーツイベントの充実や横浜におけるスポーツを活性化させていく方向性が示されている。

また、平成23年1月に策定した「横浜市教育振興基本計画」では「重点政策6」として「魅力ある高校教育の推進」を掲げ、その中で、「時代のニーズに対応した教育内容の見直しや専門コースなどの設置などにより、『生徒一人ひとりの可能性の伸長・希望する進路の実現』に向けて、魅力ある高校づくりを推進します。」としている。この基本計画を具体的に推進するために、同年3月に「横浜国立高等学校 教育振興プログラム」を策定し、横浜商業高校にスポーツマネジメント等を学ぶ学科を設置することとした。これにより、**地域における生涯スポーツ振興の担い手づくりと横浜におけるスポーツの活性化に貢献するとともに、スポーツの豊かな体験を通し、スポーツや健康分野とスポーツを支えるマネジメントに関して専門性があり、将来の社会的・職業的自立に向けた資格や技術を習得した人物の育成**を目指すものである。

2 設置の基本的枠組み

- (1) 課 程 全日制の課程
- (2) 学 科 専門学科・スポーツマネジメント科（商業に関する学科）
- (3) 入学定員 1学年1学級 40人
- (4) 設置予定 平成26年4月

3 教育理念・育てたい人物像

(1) 教育理念

スポーツや健康に関する学習や実践的な活動を通して、科学的な知識・理解を深めるとともに、スポーツとそのマネジメントにかかわる能力をはぐくむ。

(2) 育てたい人物像

- ア グローバルな視野をもって、スポーツや健康分野のビジネスの振興発展に寄与する人物
- イ 生涯にわたってスポーツの振興発展に寄与する人物

4 教育課程について

(1) スポーツマネジメント科教育課程編成の基本方針

ア 目標

- (ア) 大学進学などの進路希望を実現させる学力を育成する。
- (イ) **体のつくりや心の仕組み**、健康、スポーツ、トレーニングに関する知識を習得し、**科学的かつ安全にスポーツ技能を高める力を育成する。**
- (ウ) スポーツを振興させ支援していく**スポーツビジネスについての基礎的な知識**を習得する。
- (エ) 将来の社会的・職業的自立に役立つ**資格取得・検定合格に必要な知識・技能**を習得する。
- (オ) スポーツを通して課題を探究して解決し、国際社会に貢献しようとする意欲と態度を養う。

イ 教科・科目

上記アの目標を実現するために、次の科目を設置する。

- (ア) 大学進学を視野に入れた学力の定着に必要な普通科目を設置する。
- (イ) スポーツマネジメント科の専門科目を、30～36 単位程度設置する。

<スポーツマネジメント科専門科目>

	科目名	単位数	内容概要
スポーツ科学分野	スポーツ科学Ⅰ	2 単位	解剖生理、トレーニングの理論など、体のつくり・心の仕組み等の基礎的な理論を知るとともに、科学的で安全にスポーツ技能を実践する。
	スポーツ科学Ⅱ	2 単位	スポーツ栄養、解剖生理、トレーニングに関する理論など、怪我や疾病の予防、競技力を向上させる理論を学習し、効果的で安全なスポーツ技能の実践をする。
	スポーツ科学Ⅲ	4 単位	スポーツ生理、スポーツ栄養、コーチング、トレーニング理論など、スポーツを主体的に実践するための指導法や理論を学習し、専門的な学習につなげる。
	スポーツ実技	4 単位	専門的な指導を受け、専門とする種目の競技力や運動能力の向上を図る。
スポーツビジネス分野	スポーツマーケティング	2 単位	マーケティングの意義や役割を理解し、スポーツビジネスの事例により、特徴や在り方について考察する。
	課題研究	2 単位	スポーツビジネスに関する課題を設定し、調査・研究を行い、その成果を効果的に発表する。
	総合実践	3 単位	商業の各分野で得た知識と技術をスポーツビジネスにおいて応用、実践する。
	資格取得・検定合格を目指す科目	各 2～4 単位	ビジネス基礎、情報処理、簿記、財務会計、ビジネス情報、電子商取引、など

ウ その他の科目・講座

- (ア) より専門的な学習を進めるために、横浜市スポーツ医科学センターなどの機関や大学と連携して特別講座を行う。
- (イ) 集中英語研修として「イングリッシュ・キャンプ」を実施し、英語を活用してグローバルに活動できる人間を育てる。
- (ウ) 海外の先進的なスポーツ運営やスポーツマネジメントをその現場で体験的に学習するために海外研修などの機会を検討する。

エ 特別活動

- (ア) ホームルーム活動や家庭との連携などにより食育を進め、食に対する啓発活動を行う。
- (イ) 地域の行事などで小学生・中学生と交流するなど、スポーツを通して社会貢献する態度を育成することをねらいとして特別活動を行う。

オ 総合的な学習の時間

- (ア) スポーツマネジメント科の総合的な学習の時間は、1年次の総合的な学習の時間(YSMプログラム)と2年次の「課題研究」とし、スポーツマネジメント科の課題解決的、実践的な学習の中心として位置付ける。
- (イ) 1年次の総合的な学習の時間(YSMプログラム)では、スポーツ科学Iの学習内容と関連させ、スポーツと生徒自身の関わり方をキャリアデザインの視点から考え、専門的な知識をいかして希望を具体化していく学習の導入とする。

(2) 教育課程表

	1年	2年	3年	
1	国語総合	現代文B	現代文B	1
2				2
3				3
4	現代社会	世界史A	日本史A	4
5				5
6				6
7	数学 I	数学A	〈普通科目選択科目〉	7
8				8
9				9
10	科学と人間生活	〈理科選択〉 化学基礎・生物基礎	〈普通科目選択科目〉	10
11				11
12				12
13	体育	体育	体育	13
14				14
15				15
16	保健	保健	コミュニケーション英語Ⅲ	16
17				17
18				18
19	コミュニケーション英語Ⅰ	芸術	〈商業科目選択科目〉 ビジネス経済応用・経済活動と法	19
20				20
21				21
22	ビジネス基礎	コミュニケーション英語Ⅱ	電子商取引	22
23				23
24				24
25	情報処理	家庭基礎	スポーツマーケティング	25
26				26
27				27
28	簿記	財務会計Ⅰ	スポーツ実技	28
29				29
30				30
31	スポーツ科学Ⅰ	ビジネス情報	スポーツ実技	31
32				32
33				33
34	総合的な学習の時間(YSMプログラム)	スポーツ実技	スポーツ科学Ⅲ	34
35				35
36				36
37	LHR	スポーツ科学Ⅱ	総合実践	37
38				38
39				39
40	LHR	課題研究 スポーツ・プロジェクト・スタディー	LHR	40
41				41
42				42

*今後の検討により、一部変更することもある。

5 その他の特色ある教育活動

(1) 部活動との関連

- ア 部活動をスポーツマネジメント科で学習した内容の実践の場として位置づける。
- イ スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲやスポーツ実技の講師陣は、学習した内容が運動部活動において適切に実践されるよう、部活動においても指導を行う。
- ウ 硬式野球部をはじめとする運動部活動の顧問とスポーツ科学分野を指導する講師陣が、その指導法などについて連絡、協議し、運動部活動におけるトレーニングや練習内容の向上につなげる。

(2) 地域との連携

- ア 卒業生の協力や地域との連携により、社会的・職業的自立に向けてのキャリア教育を推進する。
- イ 地域の小学校・中学校、自治会などのスポーツイベントに参加し、その運営に協力し、企画を提案するなどの活動を行い、学習が地域で活用される機会を設ける。

(3) 高大連携

スポーツマネジメント関連のプログラムをもつ大学と連携して、スポーツマネジメント専門科目の時間や総合的な学習の時間に特別講座を行うなど、専門性を高める取組を展開する。

(4) 外部機関との連携

- ア 外部のアドバイザーや横浜市スポーツ医科学センターやその他の医療機関等と連携して、スポーツ医科学に基づいた競技力向上の取組を展開する。
- イ スポーツ関連企業やスポーツ施設等と連携し、スポーツマネジメント専門科目、総合的な学習の時間及び特別活動において、体験的な活動を展開する。

6 入学者の選抜方針

(1) 募集の区分

専門学科・スポーツマネジメント科（商業に関する学科）として募集する。

(2) 入学定員

1 学年 1 学級 40 人

(3) 通学区域

神奈川県内全域とする。

(4) 選考方法

次のア～エの結果を全て用いて選考する。

ア 調査書の評定

イ 学力検査 5 教科

ウ 面接

エ 特色検査

運動に関する能力・適性を把握するための**実技検査**を実施する。

7 施設・設備整備基本計画

(1) 野球場等について

校舎改築以後整備が行われていない野球場及びその付帯施設を改修し、夜間照明を設置する。

(2) トレーニングルームについて

科学的な理論に基づいた、運動能力を高めるためのトレーニングを行うことができる機器を備えたトレーニングルームを改修、整備する。

8 教職員・指導者等について

(1) 教職員の人事配置

科学的トレーニング、栄養、メンタルトレーニングなどスポーツマネジメント科専門科目の指導に必要な非常勤講師を配置する。

(2) 指導者等について

ア 専門的な高い見地からの指導、助言を得るために教育顧問を委嘱する。

イ 効果的なトレーニングを日常的に指導するため、指導員としてのトレーナーを配置する。